

<特集「アスペクト」>

アカン語のアスペクト Aspect in Akan

古閑 恭子¹, ダニエル・アーチャンポン²
Kyoko Koga, Daniel Acheampong

¹ 高知大学人文社会科学部
Faculty of Humanities and Social Sciences, Kochi University
² 株式会社晃立
Koritsu Inc.

要旨: 本稿はアカン語のアスペクトに関する資料を提示する。データ収集には『語研論集』第25号の英語版調査票(2.「アスペクト」)を使用した。

Abstract: This article provides Akan data collected by using the questionnaire 'Aspect' designed by Shinjiro Kazama.

キーワード: アカン語、アスペクト

Keywords: Akan, aspect

1. はじめに

アカン語はガーナ共和国に話されるニジェール・コンゴ語族クワ語派に属する言語である。アサンテ、アクアペム、ファンテ、アノマボ・ファンテ、アブラ・ファンテ、アチェム、アゴナ、アセン、ダンチラ、クウウ、ゴムア、アハフォ各方言に下位分類される(Eberhard, Simons, and Fennig 2020)。ここで対象とするのはアサンテ方言である。データ収集は、『語研論集』第25号の英語版調査票を使用し(2.「アスペクト」)、アーチャンポン(男性・33歳、アシャンティ州マンポン出身)が、各例文に相当する、あるいは類似、関連するアカン語文を言って古閑が記録する形で行った。必要に応じて、具体的用法や使用場面など、アーチャンポンによる説明も記載した。

2. 資料

- (1) Kofi á-ba deda.
Kofi PRF-come already
コフィはもう来ている。
- (2) Kofi ba-a deda.
Kofi come-PST already
コフィはもう来た。



本稿の著作権は著者が保持し、クリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンス(CC-BY)下に提供します。
<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja>

- (3) Kofi á-⁺nyá á-ba deda.
 Kofi PRF-get PRF-come already
 コフィはもう来た。

完結相「もう～した」は a-動詞語根（完了形）で表す。完了形は動作の完了とともに結果状態も含意する。(1)はコフィが現在もそこにいることを含意する。一方(2)のように **deda**「もう」と動詞語根-V（語根末母音のコピー）（過去形）でも表されるが、この文では単に起こった事態が述べられているだけで、現在もそこにいることは含意されない。（他は来ていないが）コフィは来た、などのニュアンスがある。動詞の前に **nyá**「得る」を置くと、行為達成が含意される。(3)は例えばコフィが来ると約束して来て来た、といったニュアンスになる。

- (4) Kofi m-ma-ayɛ.
 Kofi NEG-come-PST
 コフィはまだ来ていない／来ない。

- (5) Kofi á-m-má.
 Kofi PRF-NEG-come
 コフィは来なかった。

- (6) Kofi n-nyá m-ma-ayɛ.
 Kofi NEG-get NEG-come-PST
 コフィはまだ来れていない。

未完結相「まだ～していない」は過去形の否定で表される(4)。従来の研究ではこれが「否定完了形」とされる。なお、「否定過去形」が形としては完了形の否定になる(5)。これはアカン語の属するヴォルタ・コモエ諸語が持つパラドックスとされる(Boadi 2008: 25)。なお、完了形の否定(5)は「まだ～していない」の意味では用いない。(6)のように動詞の前に **nyá**「得る」の否定形を置くと行為未達成が示される。

- (7) Kofi bé-bá na é=n-kyé.
 Kofi FUT-come CONJ INAN.SUB=NEG-delay.FUT
 コフィはもうすぐ来る[lit. コフィが来るが長くかからない]。

- (8) é=n-kyé na Kofi á-⁺bá.
 INAN.SUB=NEG-delay.FUT CONJ Kofi CONS-come
 コフィはもうすぐ来る[lit. 長くかからずコフィが来る]。

- (9) Kofi i-bɛ-bá.
 Kofi PROG-VENT-come
 コフィはもうすぐ来る。

「もうすぐ～する」は「長くかからない」を用いた重文で表す。**bá**「来る」は(7)では **bé**-動詞語根（未

来形)、(8)では á-動詞語根 (順続形¹) である。(7)、(8)では主体の意志はわからない。(9)は主体の意志が関わる。(9)のように進行辞と来辞の組み合わせで近い未来を表す。

- (10) (Oo) Kofi á-⁺bá.
oh Kofi PRF-come
あ、コフィが来た!

気づいた場面での発話では完了形を用いる。なお来ることを予想していた場合と予想していなかった場合の区別は特にならない。

- (11) Kofi ba-a nnó⁺rá.
Kofi come-PST yesterday
昨日コフィが来た。

(11)は単純な過去形である。

- (12) nnó⁺rá Kofi á-⁺m-má.
yesterday Kofi PRF-NEG-come
昨日コフィは来なかった。

「～しなかった」は完了形の否定で表す。従来の研究では「否定過去形」とされる。

- (13) me=a-dí amángo=nó deda.
1SG.SUB-PRF-eat mango=DEF already
私はあのマンゴをもう食べた。

- (14) mi=di-i amángo=nó deda.
1SG.SUB=eat-PST mango=DEF already
私はあのマンゴをもう食べた。

- (15) me=a-nyá á-⁺dí amángo=nó deda.
1SG.SUB=PRF-get PRF-eat mango=DEF already
私はあのマンゴをもう食べてしまった。

他動詞の完結相「もう～した」も自動詞の完結相(1)と同じく a-動詞語根 (完了形) で表す。(13)はマンゴがなくなったことが含意される。(14)のように deda「もう」と動詞語根-V (語根末母音のコピー) (過去形) でも表されるが、この文では単に起こった事態が述べられているだけで、マンゴがなくなったという含意はない。動詞の前に nyá「得る」を置く形でも表される(15)。(15)は、食べてはいけないことを知らずマンゴを食べてしまった、のようなニュアンスがある。

¹ 動詞が連続するとき、2つ目以降は基本的に最初の動詞と同じ活用形になるが、進行形と未来形では2つ目以降が á-動詞語根になる。á-は serializing prefix (Forson 1990)、serial marker (Osam 1994)、consecutive prefix (Dolphyne 1987, Osam 2008)、infinitive (Boadi 2008)などとされる。本稿では「順続形 consecutive」とする。

(16) mi=n-ní-i amángo=nó.
1SG.SUB=NEG-eat-PST mango=DEF
私はあのマンゴをまだ食べていない。

(17) me=n-nyá n-ni-i amángo=nó.
1SG.SUB=NEG-get NEG-eat-PST mango=DEF
私はあのリンゴをまだ食べられていない。

他動詞の未完結相「まだ～していない」も自動詞の未完結相(4)と同じく過去形の否定で表す。(16)は単に行為が完結していないことを表す。一方 nyá「得る」を用いた(17)はいずれ食べるという意志が感じられる。

(18) mí=ñ-ní amángo=nó seeséi.
1SG.SUB=NEG-eat.FUT mango=DEF now
私はあのマンゴを今はまだ食べない。

否定未来形(18)は意志でまだ食べないことを表す。

(19) o=o-dí amángo=nó seeséi=ára.
3SG.SUB=PROG-eat mango=DEF now=just
彼は今（ちょうど）そのマンゴを食べています／食べているところです。

進行中の動作は V-動詞語根（V は主語末尾母音のコピー）（進行形）で表す。

(20) mpómá=nó á-⁺búé.
window=DEF PRF-open
窓が開いている。

(21) ye=a-búé mpómá=nó
2PL.SUB=PRF-open window=DEF
（誰かが開けて）窓が開いている。

完了形は結果状態を含意する。自動詞完了形(20)は窓がひとりでに開いたか誰かが開けたかは分からない。一方、他動詞完了形(21)は行為者の存在が含意される。なお、アカン語では動詞の多くは同形で自動詞にも他動詞にも使える。またアカン語には受動文がない。

(22) ná mpómá=nó á-⁺búé.
then window=DEF PRF-open
窓が開いていた。

- (23) ná ye=a-búé mpómá=nó.
then 1PL.SUB=PRF-open window=DEF
(誰かが開けて) 窓が開いていた。

結果状態の過去は過去を表す小辞 ná と完了形の組み合わせで表す。(22), (23)はそれぞれ(20), (21)の過去形。

- (24) me=kàn koowáák' rataá anópá=bíará.
1SG.SUB=read.HAB newspaper morning=every
私は毎朝新聞を読む。

- (25) nansá=yí me=kàn koowáák' rataá anópá=bíará.
these.days=this 1SG.SUB=read.HAB newspaper morning=every
このところ毎朝新聞を読んでいる。

習慣アスペクトは声調のみ(1音節動詞は高、ただし音節末鼻音があり後続語がある場合は高低。2音節動詞は低高)で表す(習慣形)。長い習慣と最近の習慣の違いは時の副詞句によって表される。

- (26) wó=se wó=maamé.
2SG.SUB=resemble.STA 2SG.POSS=mother
あなたは(あなたの)お母さんに似ている。

- (27) ɔ=hye ataadéé.
3SG.SUB=wear.STA clothes
彼は服を着ている。(現前の状態)

- (28) ɔ=a-hyé ataadéé.
3SG.SUB=PRF-wear clothes
彼は服を着ている。(結果状態)

状態を表す活用形(状態形)がある(低声調のみで表す)。数は少ないが、se「似ている」、wo「持っている」、nim「知っている」など状態形以外の活用形がない動詞がある(語彙的状态動詞(26))。一方、わずかであるが hye「着る」、kita「(手に)持つ」、da「横になる」、gyina「立ち止まる」など、保持や姿勢変化を表す変化動詞で、他の活用形と併せて状態形を持つものがある。これらの状態形は現前の静的な状態を表し(27)、動作結果としての状態を表す完了形(20), (21), (28)と区別されるようである。(27)状態形は、例えば服を着ていないと思っていたが実は着ていることに気づいた時の発話、(28)完了形は、例えば風呂から上がった人についての発話である。

- (29) ná me=kó sukúu dabíará.
then 1SG.SUB=go.HAB school everyday
私はその頃毎日学校に通っていた。

- (30) me=kɔ-ɔ sukúu dabiára.
 1SG.SUB=go-PST school everyday
 (最近) 毎日学校に通っていた。

過去の習慣的動作は習慣形と過去を表す小辞 ná の組み合わせによって表す(29)。(30)のように過去形で短期間(数日、数週間、数ヶ月)の習慣を表すことができる。

- (31) me=a-kó Kumásé pen.
 1SG.SUB=PRF-go Kumasi before
 私はクマンに行ったことがある。

経験を表すには完了形を用いる。

- (32) awíyé=nó bóos=nó hyɛ-ɛ/fri-i aséé tu-i.
 end=DEF bus=DEF set-PST/depart-PST bottom depart-PST
 やっとバスは走り出した／走り始めた。

開始的なアスペクトは動詞句「始める」を用いて表す。

- (33) ennó⁺rá ɔ=da-a da=mú=nó nyináá.
 yesterday 3SG.SUB=sleep-PST day=in=DEF all
 昨日彼女は一日中寝ていた。

- (34) ennó⁺rá ná ɔ=da saára.
 yesterday then 3SG.SUB=sleep.STA like.that
 昨日彼女は(今みたいに)寝ていた。

(33)のように長時間の継続を過去形で表すこともできるが、単に過去の出来事として表現するのみで長時間継続の意味はもっぱら時の副詞句に依存する。(34)のように状態形と ná の組み合わせで長時間継続を表すこともできる。この場合は「一日中」など期間を表す要素を用いることはできない。

- (35) me=bɔ-ɔ mmódén kã-ã me=anó.
 1SG.SUB=hit-PST zeal touch-PST 1SG.POSS=mouth
 私はそれをちょっと食べてみた。

- (36) me=yere-e me=hó kã-ã me=anó.
 1SG.SUB=stretch-PST 1SG.POSS=self touch-PST 1SG.POSS=mouth
 私はそれをちょっと食べてみた。

- (37) mi=miá-a me=aní kã-ã me=anó.
 1SG.SUB=grab-PST 1SG.POSS=eye touch-PST 1SG.POSS=mouth
 私はそれをちょっと食べてみた。

試行的なアスペクトは「試す」に相当する動詞句で表す。

- (38) ɔ=kyekyé ma-a obiárá bi.
3SG=share.RED give-PST everyone some
彼はそれ(ら)をみんなに分け与えた。

- (39) ɔ=kyé ma-a obiárá bi.
3SG.SUB=share give-PST everyone some
彼はそれ(ら)をみんなに与えた。

反復的アスペクトを表すには、動詞の重複形を用いる。(38)が等しく配分されたことを含意するのに対して、重複形でない(39)は等しく配分されたことは含意しない。

- (40) yé=n-kó (ntém)!
1PL.SUB=OPT-go quickly
さあ、(私たちは)行くよ!

勧誘と同じ希求形で表す。差し迫った未来の動作を表す特別な形式はない。

- (41) ewíásé twá owíá=hõ hyiá.
earth pass.HAB sun=body meet.HAB
地球は太陽の周りを回っている。

恒常的な真理は習慣形で表す。

- (42) edúá=nó o-be-tú.
tree=DEF PROG-VENT-fall
あの木は倒れそうだ。

- (43) edúá=nó o-yé á-be-tú.
tree=DEF PROG-do CONS-VENT-fall
あの木はすぐ倒れそうだ。

- (44) edúá=nó o-yé á-^{*}tú.
tree=DEF PROG-do CONS-fall
あの木は今にも倒れそうだ。

アカン語には近い未来を表す活用形(近未来形)があり、進行辞-来辞-動詞語根で表す(42)。より差し迫った事態には yé「する」の進行形を用いる。(44)が最も差し迫った感じがする。(42)~(44)とも発話者の確認・判断が伴う。

(45) ná me=e-yé á-⁺tú á-⁺hwé.
 then 1SG.SUB=PROG-do CONS-fall CONS-fall
 (私は) あやうく転びかけた。

(46) anká me=e-yé á-⁺tú á-⁺hwé.
 imaginarily 1SG.SUB=PROG-do CONS-fall CONS-fall
 (私は) あやうく転ぶところだった。

(47) ná me=e-be-tú á-⁺hwé.
 then 1SG.SUB=PROG-VENT-fall CONS-fall
 (私は) あやうく転ぶところだった。

「危うく～するところだった」はyé「する」の進行形とná(過去を表す小辞)またはanká(非現実を表す小辞)の組み合わせで表す。(46)では転倒のプロセスは始まっていないが、(45)では転倒のプロセスが進行している。(47)のように近未来形とnáの組み合わせでも表される(転倒のプロセスは含まれない)。

(48) ye=bé-nyá ohó⁺hóó kyéná éntí me=bé-tó páanoó.
 1PL.SUB=FUT-get guest tomorrow therefore 1SG.SUB=FUT-buy bread
 明日客が来るので、パンを買っておく[lit. 買う]。

「～しておく」のようなアスペクトを表す形式はない。

(49) saá kotokúó=yí me=tó-e abéré a me=kó-ó Kumásé (nó).
 just purse=DEM 1SG.SUB=buy-PST time REL 1SG.SUB=go-PST Kumasi INAN
 (私は) クマシに行ったとき、この袋を買った。

(50) saá kotokúó=yí me=tó-e ansáa na me=kó-ó Kumásé (nó).
 just purse=DEM 1SG.SUB=buy-PST before CONJ 1SG.SUB=go-PST Kumasi INAN
 (私は) クマシに行く前に、この袋を買った。

(49), (50)では主節、従属節とも過去形である。

(51) ná mi=nim sé ó=tó-ó saá kotokúó=yí wó dwá=yí=mú.
 then 1SG.SUB=know.STA COMP 3SG.SUB=buy-PST just purse=DEM in market=DEM=in
 (私は) 彼が市場でこの袋を買ったのを知っていた。

(52) ná mi=nim sé ó=bé-tó kotokúó=yí wó dwá=yí=mú.
 then 1SG.SUB=know.STA COMP 3SG.SUB=FUT-buy purse=DEM in market=DEM=in
 (私は) 彼が市場でこの袋を買うのを知っていた。

- (53) ná mi=nim sé ɔ=tó kotokúó wɔ dwá=yí=mú.
then 1SG.SUB=know.STA COMP 3SG.SUB=buy.HAB purse in market=DEM=in
私は彼が市場でかつて袋を買っていた / (いつも) 袋を買うのを知っていた。

主節の過去より以前の出来事も過去形で表される(51)。主節の過去よりも以後の出来事は(52)のように未来形で表される。(53)のように従属節が習慣形だと、「(かつて) ~していた / (定期的に) ~することを知っていた」の意味になる。

略号

1	1 人称	NEG	否定
2	2 人称	OBJ	目的接語
3	3 人称	OPT	希求
COMP	補文標識	PL	複数
CONJ	接続詞	POSS	所有接語
CONS	順続	PRF	完了
COP	コピュラ	PROG	進行
DEF	定	PST	過去
DEM	指示	RED	重複
EMPH	強調	REL	関係詞
FOC	焦点	SG	単数
FUT	未来	STA	状態
HAB	習慣	SUB	主語接語
IMP	命令	VENT	来辞
INAN	無生物		

参考文献

- Boadi, L.A. (2008) Tense, Aspect and Mood in Akan. In Ameka, F.K. and M.E.K. Dakubu (eds.) *Aspect and Modality in Kwa Languages*, Amsterdam/Philadelphia: John Benjamins Publishing Company, pp.9-68.
- Dolphyne, F. (1988) *The Akan (Twi-Fante) Language, Its Sound Systems and Tonal Structure*, Accra: Ghana Universities Press.
- Eberhard, D.M., G.F. Simons, and C.D. Fennig (2020) *Ethnologue: Languages of Africa and Europe, Twenty-third edition*, Dallas, Texas: SIL International.
- Forson, B. (1990) On the morphology of Akan serial constructions, In Hutchison, J.P. and V. Manfredi (eds.) *Current Approaches to African Linguistics*, vol. 7, Dordrecht: Foris Publications, pp.63–66.
- Osam, E. K. (1994) From serial verbs to prepositions and the road between, *Sprachtypologie und Universalien forschung*, 47, 1, pp.16–36.
- Osam, E.K. (2008) Akan as an Aspectual Language, In Ameka, F.K. and M.E.K. Dakubu (eds.) *Aspect and Modality in Kwa Languages*, Amsterdam/Philadelphia: John Benjamins Publishing Company, pp.69-90.

執筆者連絡先 : koga@kochi-u.ac.jp

原稿受理 : 2022 年 12 月 10 日